

【普通作物】の【強風・大雨】対策について

< 8月 >

農業経営支援課

【早期水稻】（登熟期～成熟期）

（1）予想される被害状況

- ① 強風による茎葉の損傷や籾擦れが発生する。
- ② 高温乾燥風の場合、玄米の登熟障害や稲株の枯れが発生する。
- ③ 倒伏による登熟不良や稲株の枯れが発生する。
- ④ 浸・冠水や土砂の流入が発生する。

（2）事前対策

- ① 倒伏や脱水症状の軽減のため、深水管理とする。
※但し、成熟期にあるほ場や、棚田等で畦畔崩壊の恐れのあるほ場は行わない。
- ② 浸・冠水しやすい水田では、溝切りや排水溝の整備を行う。
- ③ 成熟期にあるものは速やかに収穫する。

（3）事後対策

- ① 風が止むまで湛水状態を保つ。
- ② 浸・冠水したところでは、速やかに排水して新しい用水と入れ替える。
- ③ 倒伏した株は隣の株に乗せたりして、穂が地面に接しないようにする。
※倒伏の状態によっては、株を動かすと損傷を大きくするので注意する。
- ④ 倒伏により穂発芽や病虫害被害の恐れのあるところでは、早めに収穫する。
穂発芽等の被害箇所は刈分けして、全体の品質が低下するのを防ぐ。
- ⑤ ほ場に飛散したゴミは、作業や機械に支障を及ぼすので早めに除去する。

【普通期水稻】（幼穂形成期～穂揃期）

（１）予想される被害状況

- ① 強風による茎葉の損傷や籾擦れが発生する。
- ② 倒伏による登熟不良や稲株の枯れが発生する。
- ③ 高温乾燥風での玄米の登熟障害や稲株の枯れが発生する。
- ④ 浸・冠水や土砂の流入が発生する。

（２）事前対策

- ① 倒伏や脱水症状の軽減のため、深水管理とする。
※但し、棚田等で畦畔崩壊の恐れのあるほ場は行わない。
- ② 浸・冠水しやすい水田では、溝切りや排水溝の整備を行う。

（３）事後対策

- ① 風が止むまで湛水状態を保つ。
- ② 浸・冠水したところでは、速やかに排水して新しい用水と入れ替える。
- ③ いもち病や紋枯病、白葉枯病、ウンカ類の発生に注意し適宜防除する。
- ④ 倒伏した株は隣の株に乗せたりして、穂が地面に接しないようにする。
※倒伏の状態によっては、株を動かすと損傷を大きくするので注意する。
- ⑤ ほ場に飛散したゴミは、作業や機械に支障を及ぼすので早めに除去する。

【大豆】（生育期～開花期）

（１）予想される被害状況

- ① 茎葉の損傷や倒伏が発生する。
- ② 湿害により生育不良となる。

（２）事前対策

- ① 浸・冠水等の湿害に備え、溝切りや排水溝の整備を行う。
- ② 中耕・培土の時期にあるほ場では、倒伏軽減のために土寄せする。

（３）事後対策

- ① 浸・冠水したら速やかに排水し、侵食された畦は早めに土寄せする。
- ② 倒伏した株はできるだけ起こして、土寄せする。
- ③ 紫斑病やハスモンヨトウ等の防除を適宜行う。

【秋ソバ】（播種期～生育期）

（１）予想される被害状況

- ① 風雨による発芽不良や折れ等が発生する。

（２）事前対策

- ① 溝切りや排水溝の整備など排水対策を行う。

（２）事後対策

- ① 速やかに排水を行い、侵食された畦は早めに土寄せする。
- ② 発芽不良等で欠株が著しい場合は、直ちに播き直しを行う。